



「ワクチンと新薬でコロナ対策万全」の筈だった

八月五日全国のコロナ新規感染者は一万五千人。一都三県では九千人に。
これまで新型コロナウイルス感染者は原則入院、例外として無症状や咳だけで息切れなしの軽症の場合、ホテル療養、自宅療養だった。(感染症法上の指定感染症二類として)

ところが菅首相は「中等症で酸素吸入必要なら入院」息苦しいだけでは入院させない。「症状が悪化したら保健所やかかりつけ医が入院を決める」と「入院制限」を発表。分科会尾身会長ら専門家にも与党にも相談しないで。普段健康な人、若い人はかかりつけ医がない。自宅療養中に血中酸素濃度低下で保健所に電話してもつながらず、救急車でたらい回し十時間が現実。家族の一人が自宅療

養となった結果家族全員が感染する事に。病床不足の対策は病床を増やすこと。中国では武漢に病院を建設。日本でもプレハブを沢山建てて無症状者、軽症者を収容、医師、看護師が巡回。必要なら、入院とすれば安心だ。労働条件、報酬を良くすれば在宅の医療関係者資格者は国民の為に頑張ってくれるだろう。緊急事態を叫んでも、オリンピック開催は国民の気を緩ませる。

医療「破壊」だ

「入院を制限すれば病床不足に陥らない」と云うのは、医療崩壊ではなく「医療破壊」だ。今に重症者が増える

と菅首相は「重症でも入院制限」と言い出すのでは無いか？
あなたはもう思われ

ますか？

来週休みます

大塚公園の噴水

東京都文京区大塚四丁目
二〇二一年七月



江戸時代末期、この辺りは松平長門守の下屋敷。明治に東京市立養育院が置かれたが、関東大震災で罹災傷病者救護に使われた。その場所には病院が作られた。現都立大塚病院だ。病院の隣、窪地や斜面のある土地は大塚公園として一九二八年に開園された。

公園の入口に「ラジオ体操発祥の地」との石碑がある。尤も、足立区や千代田区にもラジオ体操発祥の地があるそう。

噴水の左手の広場でラジオ体操をするのだろうか、コロナ禍の今はしていないらしい。公園内には大きな木が沢山ある。十一時頃には小さい子とお母さんがあちこちに。やがて十二時近くなると、あちこちから人が来て、木陰で噴水を見ながら弁当を食べていた。

八月十四日、十五日、十七日、二十一日に東京都美術館で平和美術展が開かれ、出品します。もし奇跡的にコロナが収まったらおいで下さい。

